



Contents

- P. 1 長濱センター講師が、優秀ポスター発表賞を受賞しました
- P. 2 山西教授が平成26年度「科研費」審査委員表彰を受けました
- P. 2 地球温暖化と水・土砂災害を考えるシンポジウムが開催されました
- P. 3 着任挨拶

長濱センター講師が、優秀ポスター発表賞を受賞しました

2014年の12月に山梨大学で開催された第51回環境工学研究フォーラムにて、長濱祐美センター講師が発表した研究が、優秀ポスター発表賞を受賞しました。

表題は「ヨシ繁茂制御を目的とした貯水トレンチが河岸生息生物に与える影響」で、4名の共同研究です。共同研究者は、同センターの山西博幸教授と、山西教授の指導を受けて昨年度に修士課程を修了した西村賢人さん（現 熊本市役所）、在修士1年生の木塚綾さん。西村さんの修士研究と、木塚さんの卒業研究をベースにして、長濱センター講師がまとめました。

有明海に注ぐ川の河岸にはヨシという植物が繁茂し、洪水の誘発が懸念されるなど大きな問題になっています。そこで山西教授のグループは、2013年から、佐賀県を流れる牛津川の河岸に穴を掘り、池のような「貯水トレンチ」を施工して、ヨシの繁茂を抑制できるかどうかを研究しています。「この研究では、ヨシに与える影響だけでなく、有明湾奥のみを生息場とするハラグクレチゴガニに与える影響や、生物生息の場としての役割についても検討しました。」と長濱センター講師。山西教授の丁寧な指導に基づく西村さんと木塚さんの綿密なデータ採取があってこそその成果だといいます。「他の地域では、ヨシ原生態系は保全の対象になっているところも。本調査地では問題視されていますが、共存する道を探っていきたいと思っています。」

環境工学研究フォーラムは、土木学会環境工学研究委員会が主導で行っている学会。要旨の審査を通った自由投稿は、3分ほどの口頭発表とポスター発表を組み合わせたハイブリッド方式によって発表が行われ、活発な議論が交わされます。約50編の発表の中から、5題のポスター賞が選定されます。3ページの発表要旨は、「第51回環境工学研究フォーラム講演集」に掲載されています。

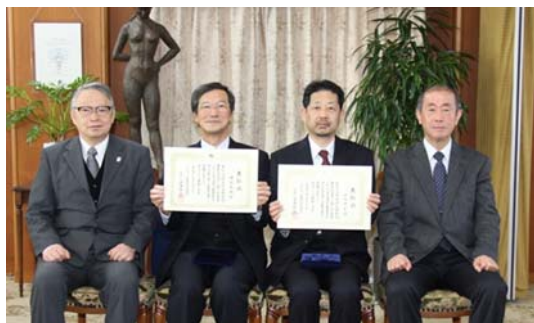


写真：賞状を持つ長濱センター講師

山西教授が平成26年度「科研費」 審査委員表彰を受けました

山西博幸教授は、平成26年度の科学研究費助成事業「科研費」の審査において有意義な審査意見をしたと表彰され、12月25日（木）佐賀大学の学長室において平成26年度「科研費」審査委員表彰の表彰状を授与されました。

この表彰は日本学術振興会が行っているもので、科研費の審査終了後に書面審査において有意義な審査意見を付した審査委員を選考していません。平成26年度は、約5,300名の審査委員の中から170名が選考されました。佐賀大学からは、山西博幸教授（低平地沿岸海域研究センター）のほか、田端正明客員研究員（工学系研究科）、が選考され、当制度始まって以来、初の表彰者となりました。



写真：賞状を持つ山西教授（左から佛淵学長、田端客員研究員、山西教授、中島晃理事）

地球温暖化と水・土砂災害を考える シンポジウムが開催されました

2014年12月10日（水）、九州大学 S-8研究グループ、同大学院附属アジア防災研究センターならびに環境省および当センターとの共催のもと、「地球温暖化時代の水・土砂災害適応策シンポジウム～九州から全国に向けて～」が開催されました。

地球温暖化のような現在の気候変動は、九州地方の亜熱帯化を促進し、一時的に激しい雨が降るのみならず、雨の降らない時期も長くなる「降雨の二極化」をもたらすと考えられています。

また、2014年には、広島県を始めとして、豪雨による大規模な水・土砂災害が日本各地で多く発生しました。このような状況を受け、今回のシンポジウムでは、これまでの水・土砂災害を振り返りながら、将来に向けた対策について考え、広く情報発信することを目的としました。

前半には基調講演と特別報告が行われました。当センターからは、日野教授が「地球温暖化がもたらす地盤の環境変化と災害～海面変動が地盤環境に及ぼす影響と評価～」と題して特別報告を行い、海面変動に伴う地層の形成と初期地盤環境の成立、塩分溶脱現象が地盤環境に及ぼす影響、地下風化現象が地盤環境に及ぼす影響、海面変動が地盤環境に及ぼす影響に関する対策、の4つの視点に基づいて最新の知見を紹介しました。その後、シンポジウムを共同主催した九州大学が取り組む「亜熱帯化先進地九州における水・土砂災害適応策の研究（S-8-2プロジェクト）」の紹介が行わ



写真：会場の様子。当日は学内外から91名が参加しました。



写真：特別報告を行う日野教授。盤分野からの視点でみる温暖化の話に、聴衆は興味を引かれていました。

れ、亜熱帯化が進むと予測される九州地方を対象とした研究事例について報告されました。後半では、「地球温暖化が九州にもたらす影響とそれを踏まえた適応策～実装に向けた備え～」と題したパネルディスカッションが行われ、意見交換がなされました。

特別報告を行った日野教授は、地球温暖化に伴う海面変動（上昇）が地盤環境に及ぼす影響には様々な要因が考えられる。しかし、現状の地盤環境が既にその影響を伴い始めているのかどうかを見極める術は極めて乏しいのが実情であり、

自然的要因・人為的要因、さらにはこれらの複合的要因としての地球温暖化に伴う海面変動（上昇）が地盤環境に及ぼす影響に関する評価技術を早急に確立しなければならないと述べ、そのためには、第四紀学、環境科学等の理学者と地盤工学、地盤環境工学等の工学者が常に共通のテーブルに座し、過去から近

未来にかけて矛盾のない地盤環境の哲学について、辛抱強く、かつ粘り強く醸成していくことが必要であると語りました。また、堆積当初の環境を復元し、現在の地盤環境を照らして両者のギャップを見極め、この経緯のメカニズムが現在の地盤環境に及ぼす影響を明らかにする手法は有明海沿岸低平地域で独自のものとなっていることを指摘し、今回の特別報告で示された種々の知見と同様の視点に基づく国内外のデータが共通テーブルに挙がってくるのを待ち続けたいと締めくくられました。



写真：質疑の様子。活発に意見が交換されました。

着任のご挨拶

本センターの新スタッフとして、木梨真知子准教授、木村圭講師が加わりました。以下、各氏からのコメントです。

木梨真知子准教授

平成26年10月1日付で低平地沿岸海域研究センターの准教授として着任いたしました、木梨真知子です。平成23年7月～平成25年3月まで、当センターの研究機関研究員として勤務させていただきましたが、その後1年6ヶ月ほど群馬工業高等専門学校で助教として勤務したのち、再びこのセンターに戻ってこようとなりました。着任にあたり、諸先生方やスタッフの皆様には研究環境の整備等で多大なご支援を頂き、厚く御礼申し上げます。

私は現在、研究の柱として「都市の安全・安心」を位置づけ、防犯環境設計に基づく都市構造の解析、住民活動が安全性向上に及ぼす影響、道路空間デザインに関する研究、集約型都市の実現に向けた循環型住環境システムの検討等を行なっています。今後は佐賀の特殊な立地特性と自然環境を生かした安全・

安心社会の構築を目標として、自身の専門とする研究分野に捉われず、分野横断的な視点を持った「低平地学」の構築に重点を置いて様々な取り組みを行ないたいと考えています。また、国際低平地研究協会 (IALT) や低平地研究会 (LORA) の活動、低平地に関する国際会議 (ISLT) 等、様々な研究・教育活動を支援し、推進していくことが重要な責務だと考えております。まだ不勉強な点が多く御迷惑をお掛けすることも多々あることと存じますが、周囲の方々と協力して全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



写真：木梨真知子 准教授

木村圭講師

2015年1月より低平地沿岸海域研究センターの講師として着任いたしました、木村 圭 (きむら けい) です。有明海の夏季の有害赤潮原因藻、冬季の珪藻など、植物プランクトンの動態について研究を進めていく予定です。博士学位 (環境科学) は、北海道大学大学院環境科学院において、大型藻の褐藻類 (海藻：コンブ・ワカメ等の仲間) の受精時におけるミトコンドリア母性遺伝機構進化の解明という細胞学的研究で、2010年3月に取得しました。当時は電子顕微鏡観察を主軸に各種細胞学・分子生物学的解析を駆使し、雄のミトコンドリアが受精後に消失する時期と機構について研究を進めてきました。2011年4月からは水産総合研究センター・瀬戸内海区水産研究所のポスドクとして、植物プランクトンとウイルスとの関係について、培養による生理学的解析と現場調査による生態学的な解析を組み合わせ、植物プランクトンに対するウイルスの影響を評価してきました。2012年4月からは、日本学術振興会特別研究員PDとして、独自の分子細胞生物学的視点からのアプローチで、植物プランクトンとウイルスの関係について解析を進めてきました。これまでの研究経歴の中、テーマを大きく変える度に新たな問題に取り組んできたことで、藻類研究において生態学から分子生物学まで、幅広い独自の研究を組み立てる力を自然に身につけられたことは良い経験となりました。今後は、有明海特有の大型藻 (ノリ) と微細藻との関わりと諸問題について、研究・技術発展の分野で、低平地沿岸海域センターに貢献すべく努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



写真：木村圭 講師

編集後記

本号からニュースレターの編集を担当することとなりました木梨です。どうぞよろしくお願い致します。着任挨拶でも書きましたが、再び当センターで働く機会をいただくとともに、佐賀の皆様にご温かく迎えていただき感謝無量です。このニュースレターがより良いものになるよう、頑張っております。

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
TEL 0952-28-8582 0952-28-8846
FAX 0952-28-8189 0952-28-8846
ホームページ <http://lit.saga-u.ac.jp>
(平成27年2月5日発行)